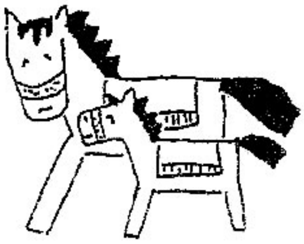
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと



30年 2月 NO.279

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347　FAX:087-851-0857
http://oumanooyako.sakura.ne.jp/

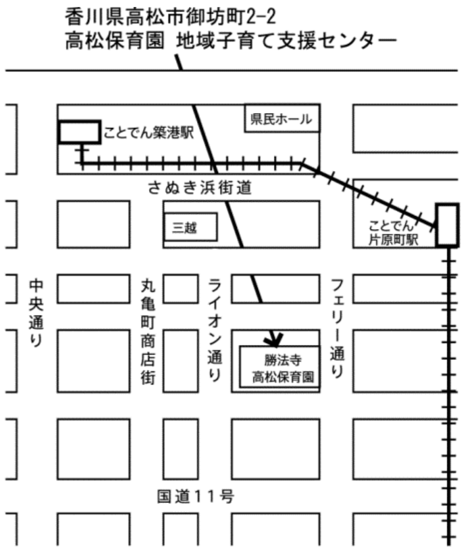
（厚生労働省･高松市委託事業）

～どなたでも～　2月の主な活動　～お気軽にどうぞ～

2月　3日	土	コンサートと「いのちのはじまり」映画会 13：30～16：00	まなびＣＡＮ３階多目的室にて。 お子さまもいっしょにご覧下さい。
2月 10日	土	体　験　保　育 10：00～12：00	同じ年齢のクラスに入って いっしょにあそびましょう。
2月 20日	火	おはなしの会 10：00～12：00	「なかよしこよし」をテーマに大型 絵本やペープサートなど楽しい会です。
2月 21日	水	「だいだらぼっち」とらまる座上演 15：30～16：20	岡山からとらまる人形劇団が来園。 「まるくて、あまくて、うまいもの」も同時上演。
2月 23日	金	健康・育児相談 11：00～12：00	園医師(小児科医）にゆっくり 相談できます。(予約要)
2月 24日	土	体　験　保　育 10：00～12：00	出産予定の方も子育て体験に おいで下さい。
2月 24日	土	おとなアート 14：00～16：00	「宇宙を描く」をテーマに黒の用紙に絵具や 銀箔で星や星座をつくります。小学生もどうぞ。 (材料をそろえるため予約2/20まで)

・火～土の9:00～18：00までは、園内開放して
いますので、親子でご来園下さい。
（但し、月・日曜・祭日は休み）

育児相談（月～土）9：00～18：00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活
入園・見学についての相談もどうぞ。

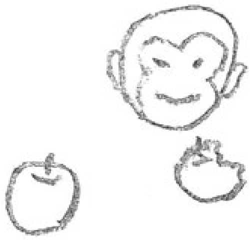


さて　そこで

さるが　りんごを
たべました
さく　さく　ごく、
さて　そこで
のみこむまでは
ぼくだけど
しょうかするのは
ぼくじゃない

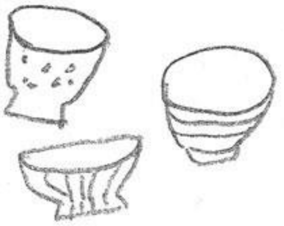
さるが　りんごを
たべながら
はて　はて　はてな
さて　そうか
しょうかするのは
ぼくのいを
うごかしてくれる
いのちだね

矢崎節夫童話集
「うずまきぎんが」
ＪＵＬＡ出版局



男たちの

「嫁と姑」問答



○先輩、聞いてください。**妻が「もうお姑(かあ)さんとは暮らせない」って言うんです。**食事のときも横を向いて、お互い目も合わせないんですよ。

□ああ、君のところも同居だったね。

○「嫁姑はなさぬ仲」なんて言うけど、うまくいかないもんですね。どうしてだろう。

□どんなことで揉めたんだい？

○妻が料理を作ったら「○郎はこういうの苦手なのよね」って、母が口出しするようになって。

□「私のほうが息子の好みは知ってる」というわけか。**結婚しても息子は可愛いんだろうな。**

○そうなんでしょうね。

□他人事みたいに言うなよ。君もマザコンの気があるんじゃないか？まあ、お母さんにすれば、息子がとられてしまったようで寂しいんだろう。

○子離れ、親離れできてなかったのかな…。

□お姑さんは、孫の面倒もみてくれるのかい？

○ええ、子どもも「ばあちゃん」ってよくなついて。

□**その状況は奥さんには辛いよ。旦那と母親がべったりで、子どももおばあちゃんになついている。**「この家に私のいる意味ないじゃない」って思っているかもしれない。

○まさか…。でもたしかに、うちの奥さん、子どもがおふくろの部屋に行くのをいやがるなあ。

□自分の居場所がないって感じたら、人に優しくできないものだよ。**逆に、お嫁さんの立場が強い家なら、居場所がないと感じるお姑さんも多いんじゃないかな。**若夫婦の邪魔はできない、頼りにもされない、「おばあちゃんは何もしなくていいのよ」なんて言われたら、「どうせ私は」って卑屈にもなるだろう。

○居場所か。考えたこともなかった。

□それに君の家の場合、「息子の嫁」と「夫の母」で。まだほんとうの親子じゃないんだろうね。だから「嫁がどうした」って話になっちゃう。**お互い「親子だな」と思えば、多少のトラブルはあっても、折り合っていけると思うな。**

○親子だって思えますかね。元は他人のわけだし。

□君、「つぎ穂(ほ)」って知ってるかい？

○つぎ穂？園芸なんかで、元の木に他の木をくっつけて育てるようなあれですか。

□そう。つぎ穂することで、台木から栄養分をもらえる分、成長が安定するそうだ。結婚もつぎ穂のようなものと考えれば、嫁いでいく家が台木で、しっかり根をはった台木の養分をもらって、そこから枝が伸びていくことができる。

○うーん、そこまで考えて結婚するかなあ。

□でも、それが結婚本来の意義だよ。**家に入るということは、いいも悪いもなく、親にとっての娘になり、娘にとっての親になることだから。**

○嫁というより、「娘が来た」という感覚ですかね。

□「娘を授かった」という感じかな。

○たしかに、そう考えたほうがうまくいきそうですね。さっそく妻と母に言いますよ。「本当の親子なんだから仲良くしてよ」って。

□いや、いきなり理屈で「親子と思え」って押し付けられても、実感わかないだろう。〈ほんとうの親子なんだから、仲良くしなきゃ〉って無理やり思って、いい姑いい嫁を演じても、気疲れして、かえって仲良くなれないという話も聞くよ。

○ああ、うちはそうかも。つきあってすぐ結婚、同居。おふくろ、かなり無理してたものなあ。ほんとうの親子になるなんて、口では軽く言えるけど、やっぱり時間が必要なんですかね。

□結婚して、すんなり親子だって思える人もいるけれど、そうじゃない人もいる。**ときには揉めたり、見直したりして、少しずつ時間をかけて「ああ、親子だな」って思えるんだろうね。**

○ええ。

□少なくとも波風が立つことは、悪いことじゃない。当人たちには辛いだろうけど。

○ぶつかってもいい、ってことですか。

□いろいろあることがいいんだよ。悲しみの中に嬉しさがあり、涙の中にも笑いがある。それが人生の醍醐味ってやつだろう。

○やけに演歌調ですね。

□初めから都合よくいく関係なんか、むしろ味わいがない。**人間、いろんな壁にぶち当たって、幅や豊かさが出てくる。嫁姑もある種の葛藤(かっとう)を潜(くぐ)り抜けて親子になっていくんだと思うね。**

○この前友達に相談したら、「今どき嫁姑なんて、いつの時代だよ」と笑われました。そいつは次男だし、両親が離れているから、顔を合わせるのも年に一度くらいだって。トラブルになるのも困るけど、あまり付き合いが浅いのも寂しいな。

□家庭なりの事情があるから、一概には言えないけれど、「嫁姑はつかず離れず、適当に付き合えばいい」というのも、もったいないね。女同士エゴもぶつかるだろうけど、心の奥深くで信頼し合える関係にもなりえる。**嫁姑ほど心強い関係はお互いにないと思うよ。**

○男の僕らが言うのも変ですけどね（笑）

□そう、男だ。嫁姑のこじれる原因は男にもあるよ。夫はたいてい母親と妻の間でどっちつかずになるだろう？これがよくない。

○えっ、そうなんですか？

□**夫は奥さんの側（がわ）に立つべきだと思う。しっかり妻の話を聞いて、言うべきことはきちんと親に言える夫なら、奥さんもそう姑を嫌ったりはしないよ。**もし、「私とお母さん、どっちをとるの？」って迫られたら、奥さんを守らなきゃ。血のつながった親子は、どうあがいてたって親子だからね。

○**親子より、まず夫婦関係だと。**

□奥さんの愚痴や泣き言を、夫が自分の問題として受け止めてやる。愚痴を聞いてもらうだけで気が済む場合もあるんだから。君、奥さんの話をちゃんと聞いてるかい？

○いちおう聞きますけど、親の悪口を言わるのってしんどいですよね。

□**「君の話もわかるけど、おふくろだって悪気はないんだから。まあ、適当にうまくやってくれよ」なんて、逃げてるんだろう？**

○ええ、まあ…。

□奥さんとおふくろさんが揉めてたら、スッと別の部屋にいなくなったりしてないだろうな？

○…。

□それで自分は会社に行っちゃえば、後は野となれ山となれでさ。気楽なもんだよ、男は。

○妙に具体的ですね。

□女房によく怒られるんだよ。「あなたはいつも逃げてばかり。男は気楽ね」って。

○先輩、相談にのりましょうか（笑）。

「新世」８月号より